令 和 3 年 度

事 業 実 績

川崎医療福祉大学

数

| I | , | 概 | 要 | | | | |
 | 1 |
|------|---|-------|-------|------|-----|---|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| Π | | 自己点検 | · i | 平価活! | 動 . | | |
 | 1 |
| Ш | | 教育研究 | 組織 | 哉 | | | |
 | 2 |
| IV | | 教育内容 | · • † | 7法・/ | 成果 | Ļ | |
 | 2 |
| | 1 | 学 | 台 | ß | | | |
 | 2 |
| | 2 | 大 学 | : B | È | | | |
 | 3 |
| V | | 入学試験 | 及て | バ広報 | 活動 | j | |
 | 4 |
| | 1 | 学 | 台 | ß | | | |
 | 4 |
| | 2 | 大 学 | : B | ₹ | | | |
 | 5 |
| VI | | 教員・教 | 負糺 | 1織 … | | | |
 | 6 |
| VII | | 学生生活 | 支担 | 至 | | | |
 | 7 |
| VIII | , | 就 職 支 | 援 | | | | |
 | 7 |
| IX | , | 研究活 | 動 | | | | |
 | 8 |
| X | | 教育研究 | 等弱 | 環境整個 | 備· | | |
 | 9 |
| | 1 | 教育研 | 究等 | 穿環境(| の施 | 設 | 整備 |
 | 9 |
| | 2 | 附属区 | 書館 | i | | | |
 | 9 |
| XI | | 社会連携 | · 产 | L会貢i | 献· | | |
 | 9 |
| XII | | 管 理 運 | 営 | | | | |
 | 10 |

I 概 要

本学は、大学の理念「人間をつくる 体をつくる 医療福祉学をきわめる」のもと、良き医療福祉人の育成のために、教育目標の達成に向けて全学で邁進している。また、大学各学部、大学院各研究科に各々3つのポリシーを定めるとともに、大学運営に必要な各種方針を定め、全教職員に周知徹底している。今後はさらに本学の基本方針の検証体制のプロセスを明確にし、各種方針に基づき中長期目標に沿った教育研究活動を展開していく。

令和3年度には、大学基準協会による大学評価(認証評価)の結果、協会の大学基準に「適合」していると 認定された。これは、本学が大学の理念のもと、目的及び目標の達成のために、中長期目標・計画を策定し、 教育・研究活動の充実に向けて大学一丸となって取り組んだ結果であると言える。学生の定員管理の徹底、自 己点検・評価委員会を含む内部質保証のあり方の検討等、一部今後取り組むべき課題はあるが、調査企画室を 中心に改善に向けて検討を始める。加えて、大学の運営方針や姿勢を主体的に点検し、健全な成長と発展につ なげるため、大学の自主的な行動規範を定める「川崎医療福祉大学ガバナンス・コード」を策定し、ホームペ ージで公表した。

また、教育研究組織の改編としては、**大学院に医療技術学研究科医療技術学専攻を新設**し、6名の新入生を迎えることができた。また、公認心理師を養成する医療福祉学研究科臨床心理学専攻においては、令和4年度に向けて収容定員増をする予定で準備を進めた。医療技術学部健康体育学科において、医療福祉の理念を学んだ救急救命士の養成コースを令和4年度に新設することとなり、厚生労働省に申請が受理された。

令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大により教育研究活動の変更及び停滞を余儀なくされたが、本学では、秋学期は対面授業を実施することができた。また、遠隔授業の活用、学生・教職員の健康管理、各種行事の実行、入学定員の確保及び社会の変化に対応した就職・進路指導、教育研究環境の整備、等を継続強化し、適正な大学運営を推進していくことができた。その結果、令和3年度もコロナ禍にありながら、国家試験等の合格率及び就職率において、良好な結果を残すことができた。また、令和2年度に実施できなかった本学創立30年記念行事については、記念シンポジウムの開催及び30年記念誌の発行を実行することができた。今後も教職員一丸となって、教育研究活動を展開していく。

Ⅱ 自己点検・評価活動

大学基準協会による第3期認証評価として、令和2年度末に提出した点検・評価報告書に基づく書面審査とともに、9月23・24日の二日間に渡り、オンラインによる実地調査を受審した。その結果、いくつかの改善課題と是正勧告があるものの、適合の認定を受けた。教員評価は、例年どおり教員評価票を用いて自己評価、所属長による一次評価を実施し、学長ヒアリングを経て本人にフィードバックを行った。各種方針の見直しにおいては、障がいのある学生への合理的配慮に関連する学生支援に関する方針と、ボランティア活動に関連する社会連携・社会貢献に関する方針の修正を行った。そのほか、事業計画書・実績書や各委員会における業務・活動計画等の点検を行い、大学組織としての点検・評価活動を実施した。しかしながら、これらの活動について大学基準協会から、内容の確認にとどまらない踏み込んだマネジメントの必要性を指摘されたことから、次年度に改善に向けた検討を実施する予定である。なお、学生視点からの自己点検・評価活動の充実に向けて、大学・学生代表者会を実施し、建設的な意見交換を行うことができた。

Ⅲ 教育研究組織

令和3年4月から、統合新設した医療技術学研究科医療技術学専攻には新たに6名の入学生を迎え、順調に 新学期をスタートすることができた。令和3年度は、大学院教育研究組織の改編として、令和4年度からの医療福祉学研究科臨床心理学専攻の収容定員増員、令和5年度に向けての医療福祉マネジメント学研究科の改組 に向けて計画的に取り組むことができた。新設予定の救急救命士養成コースについても、令和3年度に厚生労働省から認定され、令和4年度から施行されることとなった。

本学が設置している教育研究を支援する組織についても、それぞれのセンターを運営する委員会で定期的に会議を開催し、教育研究活動を迅速かつ円滑に実施するために毎年年次計画及びそれに対する点検を実施し、自己点検・評価委員会で検証、大学運営委員会で報告している。

学長のガバナンスのもと、調査企画室では、各学部、大学院各研究科、全てのセンター及び事務部と適切な連携を取るとともに、必要に応じてワーキンググループを設置し、事業の見直しと新規事業の立案策定を行っている。令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策本部として学園対策本部と連携を密にとり、大学全体に情報の周知を徹底し対応した。

IV 教育内容・方法・成果

1 学 部

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴う多くの変更や調整が必要となったが、各学科の教育目標は概ね達成され、教務委員会、総合教育センター、教職課程委員会及びFD・SD 委員会の密な連携のもと、全学的な教務活動が遂行できた。具体的な取組の成果については、以下に示す。

- (1) 適正な教育環境の提供と教育の質の保証
 - ① 休講や公認欠席の増加、学外実習の一時的な中止、予定された定期試験の実施が困難となったが、一時的な遠隔授業への授業形式の変更や補講の実施、学外実習スケジュールの調整や学内代替実習への変更、定期試験日程の調整や延長などの柔軟な対応により、本年度実施すべき教育内容を担保し、カリキュラム体系の適正な維持を図った。
 - ② 「指定規則」と「カリキュラム」とが整合性をもって運用できていることが確認できた。シラバスの 第三者チェックを実施、修正完了後、学生に公開し、年度途中で変更が生じた科目は履修学生に対して 丁寧な説明を行った。カリキュラム改正にあたっては、教務部の面談による改正主旨・内容の確認を行 い、カリキュラムの適正運用に努めた。
 - ③ 実習室、自習室、面談室及び**令和3年度より運用を開始した資格対策演習室**(QSR: Qualification Support Room)については、使用時間や収容人数を制限しつつ、学生の学修支援を行う体制を維持した。
 - ④ ファシリテーションをテーマに、ワークショップ形式のFD・SD 研修会(教育研究に関する研修会) を遠隔で開催した。授業研究カンファレンスを2回実施し、6名の教員から授業手法の事例の発表があった。学生による授業評価、卒業生アンケート調査についてはウェブで実施し、公開した。
 - ⑤ 感染対策に配慮した上で国家試験や各種資格試験対策を実施し、看護師、保健師、助産師、視能訓練士、診療放射線技師の国家試験で合格率100%を達成した。また、精神保健福祉士、公認心理師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、臨床工学技士、管理栄養士などの国家試験でも全国

平均を上回る合格率で、好成績を上げることができた。なお、これらの国家資格ごとの結果は表 \mathbb{N} で示す。

- ⑥ **災害対策基本法の改正に伴う関係規程の改正**を行い、安全管理体制の適正化に努めた。
- (2) 授業支援・教育支援システムの充実

感染対策のための分散授業及び ICT 教育環境の基盤整備のため、主要講義室の Wi-Fi 環境を整備した。 効果的な学修支援・授業管理・教材管理のため、WebClass を導入した。学生の個人別評価の把握と学修成果の可視化のための e ポートフォリオシステムの導入や学修成果の把握が可能となるディプロマサプリメントの発行について、準備・検討を行った。

(3) 教員養成のための取組の充実と教職課程センターの充実

教職課程センターを中心に、教職を目指す学生が無理なく履修し、学びの質を高めることができるようにカリキュラムを管理するとともに、教員免許状の取得を目的とした科目等履修生への指導体制の整備・強化を行った。教育実習の一部が学内代替実習となったが、必要な内容が修得できるよう教育効果を担保した。

2 大 学 院

- (1) 令和3年度も「学位授与方針」に基づき、学位授与を適正に履行した。また、「修士論文審査に関する申合せ」に従い、修士論文審査を滞りなく行った。
- (2) 本学ホームページ及び同窓会等を通して、社会人の受入れを念頭に置いた「教育方法の特例措置」及び「長期履修制度」を周知した。また、奨学金制度や TA 制度については、入学時のオリエンテーションで周知した。令和3年度入学生58名(修士課程48名、博士後期課程10名)のうち34名が社会人(修士課程25名、博士後期課程9名)であった。修士課程及び博士後期課程における社会人入学生は、令和2年度と比較し、修士課程はほぼ同じ、博士後期課程は4名増であった。TA 制度に基づき教育補助業務を行った大学院生は、修士課程(TA(M))24名、博士後期課程(TA(D))4名であり、将来の教育者・研究者としての研さんを積んだ。
- (3) 学際的な研究活動及び国際コミュニケーション能力の醸成のために川崎医療福祉学会と協力し、国際 学会口頭発表者に支援を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により申請がなかった。本学で 開催された川崎医療福祉学会第60回研究集会において、修士課程7名が研究発表を行った。
- (4) 大学院生を研究倫理研修会やコンプライアンス等研修会(FD・SD 委員会共催)に参加させ、研究倫理、研究倫理教育、動物実験等の実施に関する基本方針、個人情報保護法、臨床研究法に関する最新情報を提供した。大学院修士課程特別研究及び入学時オリエンテーションにおいて倫理講話「研究倫理と研究倫理教育」の機会を設け、研究倫理教育を徹底した。
- (5) 学修賞の表彰・推薦基準等に基づき修士課程2年次生2名を表彰した。

表Ⅳ 令和3年度 国家試験合格状況

	試 験	試 験 日	合格発表日		新 卒		全国平 (前年	
	武 映	武 被 口	百 俗 宪 衣 口	受験者数	合格者数	合格率(%) (前年度)	新卒のみ	既卒含む
	社会福祉士	令和4年2月6日(日)	◆和 4 年 9 日 15 日 (水)	65	32	49. 2 (53. 2)	52. 4 (50. 7)	31. 1 (29. 3)
	精神保健福祉士	令和4年2月5日(土) 令和4年2月6日(日)	令和4年3月15日(火)	23	19	82. 6 (86. 7)	73. 3 (71. 4)	65. 6 (64. 2)
	公認心理師	令和3年9月19日(日)	令和3年10月29日(金)	10	7	70 (66. 7)	85. 5 (81. 0)	58. 6 (53. 4)
	保 健 師	令和4年2月11日(金)		19	19	100 (95. 2)	93. 0 (97. 4)	89. 3 (94. 3)
	助 産 師	令和4年2月10日(木)	令和4年3月25日(金)	1	1	100 (100)	99. 7 (99. 7)	99. 4 (99. 6)
国	看 護 師	令和4年2月13日(日)		140	140	100 (97. 6)	96. 5 (95. 4)	91. 3 (90. 4)
家	理学療法士	令和4年2月20日(日)	A# 4/5 0 0 0 0 (1/2)	61	59	96. 7 (98. 4)	88. 1 (86. 4)	79. 6 (79. 0)
試	作業療法士	令和4年2月21日(月)	令和4年3月23日(水)	62	61	98. 4 (98. 2)	88. 7 (88. 8)	80. 5 (81. 3)
験	言語聴覚士	令和4年2月19日(土)	令和4年3月25日(金)	59	53	89. 8 (93. 2)	_	75. 0 (69. 4)
	視能訓練士	令和4年2月17日(木)	令和4年3月23日(水)	36	36	100 (100)	95. 5 (92. 8)	91. 8 (91. 1)
	臨床検査技師	令和4年2月16日(水)	令和4年3月23日(水)	67	62	92. 5 (98. 4)	86. 4 (91. 6)	75. 4 (80. 2)
	診療放射線技師	令和4年2月17日(木)	令和4年3月23日(水)	62	62	100 (97. 7)	92. 7 (83. 0)	86. 1 (74. 0)
	臨床工学技士	令和4年3月6日(日)	令和4年3月25日(金)	75	71	94. 7 (97. 1)	- (91. 2)	80. 5 (84. 2)
	管理栄養士	令和4年2月27日(目)	令和4年3月25日(金)	47	46	97. 9 (97. 8)	92. 9 (91. 3)	65. 1 (64. 2)

V 入学試験及び広報活動

1 学 部

(1) 入学試験の実施

令和4年度入学者選抜実施要項の改正に準じ、川崎学園アドミッションセンターの方針のもと、入学試験委員会での協議を経て、総合型選抜、学校推薦型選抜前期(公募・有資格・指定校推薦による入試)、学校推薦型選抜後期A・B日程、一般選抜前期A・B日程及び一般選抜後期を、本学、医療短大及びリハビリテーション学院の3校が合同で遺漏なく実施した。全入試区分において面接を行い、学校推薦型選抜前期の有資格・指定校推薦による入試を除く入試区分において学力テストを行った。また、入学試験委員会での協議を経て、3年次編入学試験を遺漏なく実施した。なお、一般選抜前期において新型コロナウイルス感染による振替受験の対応を行った。

(2) 定員管理

令和4年度の入学者数は937名であり、入学定員1,186名を21.0%下回った。これは、医療福祉学部の3学科、言語聴覚療法学科、視能療法学科、臨床工学科、臨床栄養学科及び医療福祉マネジメント学部の4学科で定員を下回ったためである。新型コロナウイルスの感染拡大や受験人口の減少などが影響したと考えられ、志願者数回復に向けた入試制度改革と広報戦略が必要である。3年次編入学者数も4名(定員充足率12.5%)と少なく、試験のあり方や定員の見直しについて、継続して検討することが必要である。令和4年度入試結果の概要は、表V-1、V-2のとおりである。

(3) 入試問題

一般選抜前期では選択科目型入試問題とし、その他の入試区分では国数英の3教科総合型入試問題(基礎学力確認テスト)とした。全ての入試問題について、出題ミス防止のため、第三者チェックを実施した。

(4) 広報活動

新規企画を含めたキャンパスガイドの作成と関係方面への送付、及び大学のホームページ (WEB オープ

ンキャンパス)に、各科の紹介動画などを掲載した。一方、令和4年度も、新型コロナウイルスの感染拡大のため、6月に予定していた高等学校進路指導教員及び3年担当教員を対象とした入試説明会は中止したが、オープンキャンパスは、6~8月及び3月に感染対策を徹底して実施した。形式は午前と午後の2部制とし、それぞれ定員500名(予約制)として実施した。併せてWEBオープンキャンパスも実施した。また、新型コロナウイルスの感染拡大による制約がある中、入試課職員による高校訪問(延べ1,575校)、進学相談会(107会場(内、資料参加のみ1会場、ウェブ0会場)、818名参加)及び高校内ガイダンス(191校(内、ウェブ67校))、並びに学科教員によるガイダンス・模擬授業(111校・会場(内、ウェブ21校・会場))を実施した。また、令和4年度に向けて、広報活動の見直しや新規の取組などについて検討した。

2 大 学 院

(1) 入学試験の実施

入学試験委員会での協議を経て、入学試験(1期及び2期)を遺漏なく実施した。

(2) 定員管理

令和4年度の入学者数は、修士課程が39名(定員充足率34.5%)、博士後期課程が1名(定員充足率5.9%)であり、令和3年度よりも改善したが、志願者数増加に向けて引き続き対策が必要である。修士課程における本学の卒業生は25名(64.1%)、大学院等在職進学制度利用者は3名(7.7%)であった。博士後期課程における本学大学院修士課程の修了者は1名(100%)、大学院在職進学制度利用者は0名(0.0%)であった。なお、令和4年度から臨床心理学専攻(修士課程)の定員を40名に拡大したが、13名が入学(定員充足率32.5%)であった。令和4年度大学院入試結果の概要は、表V-3、V-4のとおりである。

(3) 入試問題

修士課程(一般)及び博士後期課程の英語問題については、全専攻共通の問題とした。その他、専門科目は専攻ごとに作成し採点した。

(4) 広報活動

本学ホームページ及び同窓会報に大学設置基準第14条の教育方法の特例に基づく措置制度及び長期履修制度の概要を掲載した。志願者数を増加させるためには、入試制度の見直しなどと合わせて、学部在学生や卒業生等に対する広報活動を更に強化するとともに、川崎学園職員に対する大学院等在職進学制度のより一層の周知を図る必要がある。

表 V-1 入学試験及び入学状況

(令和4年4月1日現在)

試験	学部	医	療福祉	学部	保健看 護学部	リハ	ビリテ	ーション	学部		医療	技術学語	FIS		医療	冨祉マネ	ネジメン	/ 卜学部	쾀
区分	学科	医療 福祉	臨床 心理	子ども 医療福祉	保健 看護	理学 療法	作業 療法	言語聴 覚療法	視能療法	臨床 検査	診療放射 線技術	臨床工	臨床 栄養	健康 体育	医療福 祉経営	医療 情報	医療 秘書	医療福祉 デザイン	ΠĪ
入学舞	定員	136	80	80	120	60	60	60	40	60	60	80	50	80	60	60	60	40	1, 186
40 A TOI	募集人員	54	30	36	33	16	16	24	16	16	16	24	18	34	24	24	24	16	421
総合型 選抜	志願者数	18	37	24	79	83	39	30	24	36	44	31	17	55	4	10	10	2	543
2517	入学者数	17	32	23	56	26	29	27	23	29	28	30	17	51	4	9	10	2	413
N/ 1-b-1// -te-1//	募集人員	22	14	20	24	12	12	12	8	12	12	16	10	16	12	12	12	8	234
学校推薦型 選抜前期	志願者数	16	12	12	36	55	18	12	4	14	33	9	10	17	4	12	6	6	276
792.17X H11.791	入学者数	15	11	11	32	22	16	11	4	12	16	7	10	17	4	12	6	6	212
学校推薦型	募集人員	27	12	12	24	12	12	10	6	12	12	14	8	12	10	10	10	6	209
選抜後期	志願者数	31	25	14	188	104	43	20	9	84	105	34	14	11	8	9	5	5	709
AB日程	入学者数	11	8	8	16	11	12	9	0	14	10	17	1	5	1	1	1	2	127
一般選抜	募集人員	30	22	10	36	18	18	12	8	18	18	24	12	16	12	12	12	8	286
前期	志願者数	24	28	14	227	146	66	25	8	166	179	79	24	35	2	9	4	2	1,038
AB日程	入学者数	6	12	4	21	21	18	7	3	14	24	15	7	13	0	1	2	1	169
	募集人員	3	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	36
一般選抜 後期	志願者数	4	2	3	11	12	5	2	0	8	14	4	2	0	0	0	0	1	68
[久均]	入学者数	1	1	1	3	2	1	1	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0	16
	募集人員	136	80	80	120	60	60	60	40	60	60	80	50	80	60	60	60	40	1, 186
合計	志願者数	93	104	67	541	401	171	89	45	308	375	157	67	118	18	40	25	16	2,635
	入学者数	50	64	47	128	82	76	55	30	71	79	72	35	86	9	23	19	11	937

表 V-2 編入学試験及び編入学状況

	学 部	[医療福祉学音	ß	医療技	術学部	医	療福祉マネ	ジメント学	部	
	学科	医療福祉	臨床心理	子ども 医療福祉	臨床栄養	健康体育	医療福祉 経営	医療情報	医療秘書	医療福祉 デザイン	計
募	募集人員	10	5	2	3	3	2	3	2	2	32
港	志願者数	4	1	0	0	0	0	0	0	1	6
編	入学者数	3	0	0	0	0	0	0	0	1	4

表 V-3 大学院入試(修士課程)及び入学状況

研究科	医排	寮福祉学研究	1科		医療技術学研究科					医療福祉マネジメント学研究科					
専 攻	医療 福祉学	臨床 心理学	保健 看護学	感覚 矯正学	健康 体育学	臨床 栄養学	リハビリ テーション学	医療 技術学	医療福祉 経営学	医療 秘書学	医療福祉 デザイン学	医療 情報学	計		
募集人員	10	40	12	8	8	8	6	8	3	2	4	4	113		
志願者数	2	20	9	2	2	3	2	4	1	0	2	3	50		
入学者数	2	13	6	2	2	3	2	4	0	0	2	3	39		

表 V-4 大学院入試(博士後期課程)及び入学状況

研究科	医物	寮福祉学研究	2科		医療技術	学研究科		医療福祉 マネジメント学研究科	計
専 攻	医療 福祉学	臨床 心理学	保健 看護学	感覚 矯正学	リハビリ テーション学	健康科学	医療 技術学	医療情報学	ΠĪ
募集人員	3	2	2	2	2	2	2	2	17
志願者数	0	0	2	0	0	0	0	0	2
入学者数	0	0	1	0	0	0	0	0	1

VI 教員·教員組織

本学では、令和3年度も本学の「求める教員像」に合致した教員を採用するため、教員選考基準、教員選考 規程及び大学院教員任用規程に基づき、大学の理念・目的及び「医療福祉」の概念を理解し、共有する意欲が あることを前提として、良き医療福祉人を育成するために誠心誠意を持って教育できる人格者を採用している。

また、本学では、「教員組織の編制方針」に沿って、教育目標を達成するために必要な教員数を毎年確保してきたが、令和3年度受審した大学評価において、本学大学院のいくつかの専攻において、大学院設置基準を満たしていないとの指導を受け、年度内に、教員の発令を滞りなく行い、適正な教員数を確保することができた。今後は、各学科・各専攻のカリキュラム編成に沿った教員の職位ごとの定員に従って、適正な教員人事を行い人数構成の均衡を図る。特に助教の人事については、任期の改正に伴い、採用時に所属長により個々の教育研究計画を立案し、計画的な若手教員の育成が可能となった。また、学長のガバナンスのもと、学部及び大学院教育の質の保証を確保するために、「求める教員像」に合致した教員を選考するための学長面談及び准教授以上のプレゼンテーションを継続して実施することができた。加えて、適正な教員人事を実施するため、「教員の教育研究活動の業績・能力についての評価制度」を有効に活用し処遇に反映させている。

なお、大学評価(認証評価)において、「教員組織の編制方針」については、大学全体のみならず、各学部・ 各研究科についても定めることが望ましいと指導があったため、この点については今後検討していく。

また、本学教員はFD・SD研修会への出席等、教育・研究・社会活動への積極的な参加により、個々の資質向上を図ることを意識して実行しているが、大学院教員に対する FD についても、令和4年度から実施を検討する。

VII 学生生活支援

学生生活委員会を11回開催し、健康管理、環境美化、交通指導、奨学金説明会の案内、学友会活動等の支援 について計画的に取り組んだ。また、年度を通して新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた指導に取り 組んだ。

- (1) 健康管理センターの利用者数が延べ4,250名(昨年度3,647名)であった。令和3年度は学生の登校機会が回復し、利用者数も増加した。定期健康診断の受診率は98.9%で昨年度並みであった。学生相談室では、健康問題の相談が42.9%、勉学上の問題が19.2%、その他、自分の性格や家庭の問題などの相談がそれぞれ10%程度あった。
- (2) 学生支援センター委員会(年2回)を開催し、障がいのある対象学生37人への授業・学生生活における対応や施設設備の改善、駐車場の確保などの要望について検討し、可能な限りの支援を行った。
- (3) 新型コロナウイルス感染症に関わる緊急事態宣言等を受けて、学内外での行動ルールを5度にわたって 改訂し、感染防止に努めた。特に、部・サークル活動における感染対策の徹底、昼食時の教室指定や黙食指 導、ラウンジ使用時の密回避の指導等についてきめ細かく対応した。
- (4) 高等教育における修学支援新制度など奨学生に関する情報を学科と共有し、説明会の案内や資料配布など遺漏なく進めることができた。また、コロナ禍における学生支援である「学生等の学びを継続するための緊急給付金」について、988名の申請を行った。
- (5) 学科、学生課を中心に定期的な交通指導と学内巡視を行い、交通マナーの改善や駐輪指導、ロッカー室の整理等を行った。また、学外巡視では、学友会と共同して大学周辺のパトロールを行い、環境美化に取り組んだ。
- (6) 10月15日に、学生の各学科及び学友会代表20名と大学運営委員会出席者16名による代表者会(意見交換会)を行った。学修・生活環境における要望等について本学役職者が直接学生の意見を聞き、今後の大学運営に生かすことのできる有意義な会となった。
- (7) 10月16日に、本学が主担当となり、初めての試みとなるオンライン学園祭を行った。感染対策に配慮しながら、学生実行委員の支援や業者との密な調整を繰り返し、計画したイベントは全てオンラインで配信した。アクセス数は7,231回に達し、成功裏に終わらせることができた。

Ⅷ 就 職 支 援

令和3年度の求人状況としては、長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、令和2年度と比した割合で約6ポイント求人件数が減少した。特に社会福祉士で34ポイント、一般事務・企画・管理で26ポイントの減少があった。いずれも求人件数の分母が大きいことから、就職活動へ影響を与えるには至らなかった。コロナ禍により、就職支援センターの個人面談はもとより資料閲覧なども予約制となり、学生に十分なサポートができないというジレンマを抱えた1年となった。そういった状況の中でも各学科のきめ細やかな指導もあり、最終進路状況は99.1%で、昨年度の98.9%と同等の就職率となり、11年連続で98%を超える結果となった。業種分類別にみても、医療と福祉を合わせて82.1%と高い割合を維持し、「より豊かな福祉社会の創造的担い手を育成する」という本学の教育理念に沿った取組ができたものと考える。最終進路状況は表曜に示すとおりである。

学		卒	j	進 路 元	志 望 另	· 人 数	(進		-h mh +z -w.		就	職率((%)
	学科	卒業者数	進学	その他		就 職		進学者数		就職者数		(=就職者	香数/就職	希望者数)
部	専 攻	数	進子	ての他	計	男	女	数	計	男	女	計	男	女
	医療福祉	66	1	7	58	24	34	1	58	24	34	100.0	100.0	100.0
医	臨 床 心 理	59	13	6	40	14	26	13	39	13	26	97. 5	92.9	100.0
医療福祉	保 健 看 護	140	6	0	134	11	123	6	134	11	123	100.0	100.0	100.0
祉	子ども医療福祉	88	1	2	85	1	84	1	85	1	84	100.0	100.0	100.0
	学 部 計	353	21	15	317	50	267	21	316	49	267	99. 7	98.0	100.0
	感覚矯正(視能矯正)	35	0	1	34	7	27	0	34	7	27	100.0	100.0	100.0
	感覚矯正(言語聴覚)	57	0	2	55	3	52	0	54	3	51	98. 2	100.0	98. 1
	健 康 体 育	68	6	6	56	42	14	6	56	42	14	100.0	100.0	100.0
医	臨 床 栄 養	49	1	4	44	2	42	1	44	2	42	100.0	100.0	100.0
療	リハビリテーション(理学療法)	59	1	1	57	32	25	1	56	31	25	98. 2	96.9	100.0
医療技術	リハビリテーション(作業療法)	58	0	0	58	14	44	0	58	14	44	100.0	100.0	100.0
נוע	臨 床 工	74	2	5	67	42	25	2	66	41	25	98. 5	97.6	100.0
	臨 床 検 査	67	3	3	61	12	49	3	61	12	49	100.0	100.0	100.0
	診療放射線技術	62	1	0	61	36	25	1	59	34	25	96. 7	94.4	100.0
	学 部 計	529	14	22	493	190	303	14	488	186	302	99. 0	97. 9	99. 7
マ	医療福祉経営	36	0	6	30	15	15	0	30	15	15	100.0	100.0	100.0
ネ医	医療秘書	35	0	0	35	1	34	0	35	1	34	100.0	100.0	100.0
ネジメン	医療福祉デザイン	14	0	0	14	2	12	0	13	2	11	92. 9	100.0	91.7
	医療情報	34	0	5	29	17	12	0	28	16	12	96. 6	94.1	100.0
٢	学 部 計	119	0	11	108	35	73	0	106	34	72	98. 1	97.1	98.6
1	合 計	1,001	35	48	918	275	643	35	910	269	641	99. 1	97.8	99. 7

IX 研究活動

令和3年度も「教育研究等環境の整備に関する方針」に基づき、下記のとおり教育研究の推進に努めた。

(1) 本学の研究不正防止計画の内容を点検し見直しを行うとともに、研究不正防止を目的とした各種研修会等を定期的に実施し、適正な研究活動を推進した。コンプライアンス等研修会及びAPRIN e ラーニングプログラムは受講を全員に義務付け、いずれも受講率は100%であった。

また、第三者による内部監査 (無作為抽出 11 件 (内、特別監査 1 件)) の継続的な実施に加え、新たに民間助成金におけるモニタリングを実施し、適正に管理・運用されていることを確認した。さらに、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の改正に基づく研究公正啓発活動として啓発ポスターを発行(令和 4 年度以降は、年間 4 回 (四半期に一度)予定)した。

- (2) 競争的研究費獲得のための研修会を全6回開催し、科学研究費助成事業については表IXのとおり 115 件 が採択された。その他の外部競争的研究費は、13 件採択された。
- (3) 学内の研究活動の促進が、更なる研究活動及び知的財産発掘の活性化へ発展し、特許等の出願(特許3件) 及び査定(特許2件)に寄与した。
- (4) 研究環境等の整備の一環として、研究のための医福大連絡通路(県道ブリッジ)の規定時間外使用について、エリア解錠時間登録・変更の運用体制を整備した。

表区 科学研究費助成事業 管理課題(代表課題)採択数推移

	申請件数(※)		当該年度	管理課題数		前年度比
	中前件級(※)	(新規)	(継続)	(転入)	(合計)	削牛及比
令和元年度	91	31	56	1	88	1.17 倍
令和2年度	102	25	64	1	90	1.02 倍
令和3年度	96	27	85	3	115	1.28 倍

※前年度秋(9~11月)に申請を行い、令和3年4月1日に交付内定

X 教育研究等環境整備

1 教育研究等環境の施設整備

本学の教育研究等環境整備については、「教育研究等環境の整備に関する方針」に基づき、令和3年度の目標に従い、本学の教育研究がより充実するよう環境整備を行った。

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、状況に応じて遠隔授業の導入及び対面授業では学生数の制限、距離を取って着座させるなどの対応を実施した。令和3年度は、実験研究室等を4室改修し、国家試験等の対策のための「資格対策演習室」として改修し運用を開始した。

学内のWi-Fi 環境については、令和3年度は、講義室、演習室での活用が十分可能となるよう各階に整備することができた。令和4年度には、大学院臨床心理学専攻の入学定員が増員することから、大学院生の実習施設でもある附属心理・教育相談室の拡充及び、同年度に健康体育学科に救急救命士養成コースを新設することから、それに伴う環境整備を計画した。

また、研究環境では、動物実験に係る研究環境向上及び実験動物の飼養における衛生的課題解消のため、 動物飼育室の改修を行い、室内の施設設備を更新したことで研究環境が向上した。

2 附属図書館

本学附属図書館基本方針に従い、学修、教育、研究活動を支援する図書館活動を展開した。利用促進として「図書館学生Web 選書 2021」「新入生図書館オリエンテーション」などを新型コロナウイルス感染症対策に留意して実施した。「第 10 回図書館ベストリーダー賞」では、学生の図書館利用制限期間があったにも関わらず、例年並みの受賞者の貸出利用数があった。また、令和 2 年度に続き、新設学科・改組学科完成年度以降運用する学科配分額の基準案作成に向け、具体案を提示しながら図書館運営委員会で検討した。感染対策として閲覧席飛沫防止パネルの設置や情報検索講習会使用教室の利用率を 50%に制限して、利用者の学修、教育、研究支援を行った。

XI 社会連携·社会貢献

本学社会連携センターの各部門における令和3年度の実績は以下のとおりである。

(1) 地域連携事業

新型コロナウイルスの感染拡大により、令和3年度の公開講座はオンラインで実施され、例年の来場者と同等もしくはそれ以上の視聴があった。第1回公開講座「フレイルを防ごう ~いきいきと地域で暮らすために~」は、第1話「身体的フレイル領域」が165回、第2話「オーラルフレイル」が172回、第3話「認知的フレイル領域」が166回視聴された(令和4年4月1日現在)。第2回公開講座はワークショップ形式で計画していたが、感染拡大により中止した。第3回の「With コロナの新時代を迎えた今だからこそ知っておくべきこと」は、第1話「健康に留意したICT機器の活用について」は116回、第2話「美味しいおうち時間の過ごし方」は190回視聴された(令和4年4月1日現在)。総合医療センターでの市民公開講座は中止となった。学科公開セミナーは、こども医療福祉学科のみ対面で開催し、他は全てオンラインで実施した。また、大学コンソーシアム岡山との連携事業「日ようび子ども大学」は中止された。「吉備創生カレッジ」には保健看護学部保健看護学科から3名の講師を派遣した。倉敷市大学連携講座には1名の講師の派遣要請に応じた。教員による一般市民対象学外出張講座は合計16件実施された。

(2) TEACCH 普及活動事業

TEACCH の各講座・セミナーもウェブ開催となった。そのため、令和3年度は北海道から沖縄までの33名が年25回にわたる「自閉症特別講座」を受講することが可能となった。「レベルアップセミナー」には11名が参加し、「トピックセミナー」には242名の参加があった。

(3) 高大連携事業

高校生の本学への訪問・見学は、岡山・香川からの延べ7校にとどまった。他方、本学の教員が岡山・広島・岩手(遠隔)・愛媛(遠隔)の延べ58校で講義・講演を行った。連携協定を結んでいる玉野光南高等学校には例年通り出張講義を5回行い、各回につき80名の生徒が参加した。清心女子高等学校では36名の生徒が連携講座を受講し、その後の「探究」の成果を学習発表会で発表した。

(4) 国際交流事業

新型コロナウイルス感染症拡大のため、現地での海外研修、留学生・海外からの教職員の受入れ、海外提携校とのレビュー・ミーティングは実施できなかった。現地での海外研修の代わりに、海外研修・海外との交流をオンラインで実施した。15 名の学生が1日間のグリフィス大学研修、3名の学生が4週間のヴィクトリア大学語学研修のプログラムを有料で受講した。6名の学生がデンマーク・ノーフュンス・ホイスコーレの日本人留学生と交流し、7名の学生が上海中医薬大学・上海健康医学院との3元中継で現地学生と交流した。初めての試みであったが、参加した学生には好評であった。

Ⅲ 管 理 運 営

本学は、「川崎医療福祉大学管理運営方針」に従い、本学の教育理念に沿って教育目標を達成するために迅速かつ適正な運営を行っている。令和3年度は、調査企画室で、学長直轄のガバナンスのもと、管轄部署と連携を取り、担当副学長等と相談しワーキンググループを組織するなどのサポートを行った。各教育研究組織、各委員会においては、「川崎医療福祉大学方針集」に明記した各種方針に沿った年度計画を実行した。

また、令和3年度は大学評価(認証評価)に向けて、本学の教育研究活動についての問題点及び課題解決について全学教職員に周知するとともに可能な限り対応した結果、一部の改善事項を除いては概ね良好であるとの評価結果を受けることができた。加えて、学生や保護者を中心としたステークホルダーに対する説明責任を積極的に果たすとともに、大学の運営方針や姿勢を主体的に点検し、健全な成長と発展につなげるため、大学の自主的な行動規範を定めることが求められており、本学では日本私立大学協会が公表しているガバナンス・コードに準拠し、令和3年度に「川崎医療福祉大学ガバナンス・コード」を策定し、ホームページで公表した。

教員の働き方改革については、教員への説明と人事課の協力で実施し、専任教員の休日勤務の取扱い等の規程を制定し、裁量労働制の導入をスムーズに行うことができた。

事務部門については、事務職員の任命換え、学科補助員の適正な人事異動等を含め、適材適所となる人事を 人事課と協力して行った。業務改善による時間外業務の削減を実施し、同時にワークライフバランスの意識付 けを強化し、年次有給休暇取得率を上げることができた。教職員の防災意識の啓発を目的とした防災訓練の実 施、及び本学独自に設置している自衛消防組織の班長となる者の自衛消防組織新規講習受講を計画的に行った。

財務に関しては、前年度実績に応じた実勢型予算編成実施を計画し、各学科からの予算設定のための積算調書作成の際、高額備品等の各学科間での共用、設置場所の一元化等の調整を図りながら予算化することを実行した。経常費補助金については、大学を挙げて教育研究活動の改善に取り組み、更なる獲得を目指し、「私立大学等改革総合支援事業タイプ1:『Society 5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」にも採択された。今後も無駄な備品の整理を徹底するとともに、教職員の備品管理に対する意識を更に強化する。